

踏み跡 <My Mountains>

茨城県の山は面白い。山の高さ、山の名前、山の形……色々な観点で山歩きを楽しくしてくれる。山と溪谷社の「分県登山ガイド 茨城県の山」を見てはプランを練り、行って来てはまた読み直しをして見るという繰り返しが続いている。日立市を冬の季節風から守るような位置にある高鈴山を選んでみた。本山の谷を隔てて向かい合う神峯山とつなぎ合わせて循環ルートで歩いてみることにした。車を使った登山ではこういうコースの組み立てが適している。おそらく今年最後の山になるだろうと思い、大久保君を誘ってみた。

平成9年12月13日
6時35分新検見川駅に集合し、16号線経由で柏ICを目指したが大渋滞。常磐自動車道は順調に進み、日立中央ICで降りて県道日立・山方線へ。本山自然の村入口に10時15分着。自然の村の入り口の道端に駐車して身支度を整え、10時32分に出発。キャンプ場で水を汲んで沢沿いの高鈴山への道に入ると、キャンプ場の一番奥から登山道が始まった。青空の下、落葉を踏む音と山道に落ちた枯れ枝が踏まれて折れる音。北風があたるところでは冷たさを感じるが、風のない日だまりでは温かい。

高鈴山(623.3m)11時35分。頂上では気象観測用のレーダーサイトの工事中。遠くに特徴的な山容の男体山と月居山が良く見える。東側のピークで風を避けて昼食。気持ちの良い頂上でお湯を沸かして温かい飲み物の予定だったが、大久保君がコッヘルを忘れてきたので残念ながらお預け。冷えた食事に冷たい水で昼食を済ませて暫時休憩の後12時45分に頂上を出発。稜線上を北上。気持ちの良い尾根歩きが続くと馬酔木の中を歩くようになり御岩山(492m)。本山トンネルの上を通過して東へ回り込むように登って行くとやがて神峯山(かみねさん598m)、13時45分。



山頂でおやつを食べて中休止。谷を見下ろすと日立鉱業所の大きな煙突が途中で折れて立つ姿、そしてその向こうに日立の町と太平洋が見える。(小説「ある町の高い煙突」のモデルになったとのこと) 片や山側の眺めは男体山と月居山。景色と日だまりの雑談とで中休止は大休止に変更。(左写真：神峯山から日立市方面と太平洋をバックにして) 15時出発、本山へ尾根道を一直線に下るつもりだったが、ルートが見当たらず。仕方なく神社の前の道を下ることにした。緩やかな下りが続いた後不動の滝の数百m下流に出た。不動の滝を見物して本山自然の村入口の駐車地点に帰着。帰路は本山トンネルをくぐり抜けて里美村の「ぬく森の湯」で入浴と夕食(忘年会のつもりで)。ぬく森の湯を18時に出発、常陸太田・那珂IC経由で家路に着いた。これで平成9年の山歩きは終了。来年はどんな山歩きになるだろう。

以上
<註> 神峯山は、平成5年5月1日版の国土地理院2.5万分の一地形図によると、山名は神峯山、南峰に598mと表記がある。日本山名事典(平成16年発行)によれば、山名は神峯山、590mとなっている。平成23年7月現在の国土地理院の地図閲覧サービスで確認すると、山名は神峰山、北峰に三角点587.1m南峰には特に表記なし。この文書をまとめるにあたっては、登山した平成9年時点での情報をベースにした。

